



平成17年3月2日
編集人兼発行人
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 (株)大勝堂印刷

さらば我が母校 今、旅立ちのとき

厳しい冬の風も和らぎ、何となく春のおとずれを感じさせる今日、第七十期生の卒業式が挙行政される。

平成十四年四月(自らの像に見守られながら能代高校の門をくぐった時から、精一杯歩んできた三年間、多感な高校生生活の三年間は、成長という名のものとにおいて、自己を高める時期であったに違いない。卒業する、数々のことが、走馬灯のように思い出されていくであろう。

入学式の日、何もかもが新鮮で、希望をもって歩いた足取りは軽かった。二年次の思い出多き修学旅行、今年度は、二期制の影響により、準備期間が短かったものの、いつになく情熱を持って団結した能高祭、クラス全員で取り組んだ体育祭、疲労感と充実感が交錯した里帰り。その後一週間は足を引きずりながら歩いた、またクラブ活動に励んだ人もいたろう。流した汗はこの高場の地に消えたが、

活動の実績はこれからは後輩たちの支えになり、足跡は消えることなく道標になっているだろう。

入学時から厳しくも暖かく見守ってくれた三年部主任の神馬先生は、「入学した頃の気持ちと忘れられ、純粋に、前向きに一生懸命取り組んだ三年生である、生徒行事など、チームワーク良く、さわやかに盛り上げ成功させた。部活動も数多くの部で、インターハイ、全国大会に出場し、頑張った学年である」と話してくれた。頼りがいのある先輩方いろいろな面で助けられた在校生も大勢いるだろう。

人生という長い道は、たぐさんの分かれ道があり、門がある。しかしその門を開いて、親切に招いてくれる人はいない。その道は、幾度の厚い壁を打ち破ってこそ通れる道なのである。先輩たちは多くの障害を乗り越えて、前進してくれるものと確信している。

高場の地、「ほたるの光」の歌声が響き渡り、やがて、二八二人の若人は個々の目的に向かってそれぞれの道を確実に歩み始める。その道は遠くたが、自分の目標に向かって全力で取り組むという思いは、同じである。そして、三年間共に悩み、苦しむ喜び合った仲間たちは生涯忘れ得ぬ友になるはずだ。二八二人の卒業が洋々たる人生を健康に、そして力強く歩いて行かれることを切望する。



無限の可能性へ

学校長 菊谷

「高きへの挑戦」の著者、加藤廣志氏の理論と実践には感動と勇気を与えられた。多くの人は、ピアノは両手に打ち出し頂上に立つたことに意義がある。

スケートボールには上背のある者が有利という一般の見方に対し、独自のカラーを攻守

平成16年度 皆勤賞受賞者									
A組		B組		C組		D組		E組	
阿部 貴之	石川 慶一	鎌田 泰貴	小杉山泰耶	近藤 佳子	佐藤あゆみ	山田 直弥	石井 裕亮	伊藤 朱美	島山 潤・三浦 桂子
大原 恵	小松 祐介	小松 佳徳	館岡 博樹	田畑 麗	中村 敬人	佐々木太郎	高橋 恵子	大久保 隼	加賀谷翔人
齋藤 宗	佐々木景成	齋藤 依奈	小杉山倫弘	桐越志依奈	土佐 勇太	浅野 慶	神尾健太郎	佐藤 有子	佐藤 夏希
鈴木 政子	田森 成	藤崎 智之	船山 鮎二	若狭 一輝	(五八名)	佐藤 悠太	柴田 和恵	鈴木 悠紀	田村 聡
若狭 一輝	(五八名)	若狭 一輝	(五八名)	若狭 一輝	(五八名)	若狭 一輝	(五八名)	若狭 一輝	(五八名)

より期待される能高生

能代高校では、来年度より募集人員が四人減員されることと決定している。生徒数が減ることは、私たちの高校生活の多方面に影響を及ぼす。問題を引き起こすことを皆さへは存じだすところ。

まず、第一に予算面である。能高祭等に関する生徒会予算は、来年度、入会金・会費を合わせて約七十万円の予算減額が行われる。

また、部活動の遠征費等に関わる体育文化後援会費も、両後援会合計で年間約百万円ずつ、三年間に渡って減額していく。そのために、合宿補助費等が少なくなる予定である。

額が見込まれている。さらに三年後は、今年度と比較して二百万円以上の予算収入がなくなる。

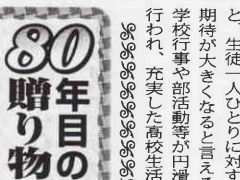
また、部活動の遠征費等に関わる体育文化後援会費も、両後援会合計で年間約百万円ずつ、三年間に渡って減額していく。そのために、合宿補助費等が少なくなる予定である。

目指せ 全員合格!

進路指導主事 小松 正孝

大学推薦入試・AO入試合格者		
大学	学部・学科	人数
弘前大学	人文・人間文化	1
青森大学	人文社会・行政政策	1
秋田大学	教育・学校教育	1
山形大学	教育文化・学校教育	1
岩手大学	経済・経済学	1
秋田大学	工学部・機械工学科	1
秋田大学	工学部・機械工学科	1

大学推薦入試・AO入試合格者		
大学	学部・学科	人数
弘前大学	人文・人間文化	1
青森大学	人文社会・行政政策	1
秋田大学	教育・学校教育	1
山形大学	教育文化・学校教育	1
岩手大学	経済・経済学	1
秋田大学	工学部・機械工学科	1
秋田大学	工学部・機械工学科	1



私たちの後輩が四人減り、新しい人間関係の輪が狭くなってしまうこと、逆に言う、生徒一人ひとりに対する期待が大きくなる。学校行事や部活動等が円滑に行われ、充実した高校生活が送れるように、先生方や事務の方でも配慮してというものが多かった。私たちはそれに応えるだけの目覚めとアイデアを持ち、学校生活の目的を再確認するべきではないだろうか。

私たちの後輩が四人減り、新しい人間関係の輪が狭くなってしまうこと、逆に言う、生徒一人ひとりに対する期待が大きくなる。学校行事や部活動等が円滑に行われ、充実した高校生活が送れるように、先生方や事務の方でも配慮してというものが多かった。私たちはそれに応えるだけの目覚めとアイデアを持ち、学校生活の目的を再確認するべきではないだろうか。

「無限の可能性へ」の著者、加藤廣志氏の理論と実践には感動と勇気を与えられた。多くの人は、ピアノは両手に打ち出し頂上に立つたことに意義がある。

スケートボールには上背のある者が有利という一般の見方に対し、独自のカラーを攻守

「無限の可能性へ」の著者、加藤廣志氏の理論と実践には感動と勇気を与えられた。多くの人は、ピアノは両手に打ち出し頂上に立つたことに意義がある。

スケートボールには上背のある者が有利という一般の見方に対し、独自のカラーを攻守

「耳をそばめて」という映画がある。その中に、主人公が図書館で手に取る本の、全員の図書カードに、同じ人の名前があることに気付くという場面がある。主人公は「この図書館で、本は借りて、返す。借りた本は、図書館にある。自分のパーソナルカードが貼られている。そのカードを返す。借りた本は、図書館にある。自分のパーソナルカードが貼られている。そのカードを返す。借りた本は、図書館にある。自分のパーソナルカードが貼られている。そのカードを返す。」

